

[ 目 次 ]

2000・5

ページ

SKYLIGHT  
〈今月の焦点〉

あすかの見た超新星残骸 常 深 博 247

富士山頂サブミリ波望遠鏡と  
その初期成果 関本裕太郎, 山本 智 257  
岡 朋治, 立松 健 一

天球儀  
〈読物〉

大学と研究者 石田 蕙 一 266

欧文報告編集の今昔 海野和 三郎 272

雑報

日本天文学会 早川幸男基金による  
渡航報告書 275

シリーズ

《海外研究室事情 (5)》 山 村 一 誠 276  
**Astronomical Institute**  
**“Anton Pannekoek”, University of Amsterdam**  
アムステルダム大学アントン・パネコック天文学研究所

月報だより

278

[ 表紙説明 ]

富士山頂サブミリ波望遠鏡は中性炭素原子線 CI: 492 GHz (波長 0.6 mm) による銀河面広域観測を目的として、東京大学理学部初期宇宙研究センター・国立天文台・分子科学研究所によって開発された。1998年11月より富士山頂西安河原 (標高 3725 m) にて、遠隔制御によるサブミリ波広域観測をおこなっている。口径 1.2 m の主鏡に、810/500/340 GHz を同時に観測できる超伝導受信機、そして 900MHz のバンド幅を持つ音響光学型分光計 (AOS) を装備している。1998 年度冬季だけで過去に中性炭素原子線で観測された領域の 10 倍以上に相当する 20 平方度の観測をおこなった。  
(SKYLIGHT 参照)

(表紙デザイン: 三宅洋子)